

2015 1/13

No.1986

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



三浦海岸（三浦市）の浜辺で、穏やかな日差しを浴びながらダイコンがずらりと干されている。地元の農家有志によって約20年前から行われ、冬の風物詩として定着した。天日干しの作業は2月中旬まで続く。



contents

視点・点描	3
時間軸を楽しむ発想から	
経 済	4
真価問われるアベノミクス 鍵握る消費の行方	
政治反射鏡	7
「安倍1強」屹立の影で… 国民の不安にどう応えるか	
経 済	8
欠陥エアバッグに世論反発 タカタ、創業家のトップ雲隠れ	
くらし2015	10
電子たばこ、是か非か	
広告珍談	12
うまい物もろもろ⑤ カメはおめでたい！	
NNAアジア経済レポート	13
会員のページ	14
設立50周年は来年4月に（その7）講演会④ 会員の動き	
会員のページ	15
設立50周年は来年4月に（その7）講演会④ 会員の動き	

事務局だより

◇横浜定例講演会

2015年1月26日（月）

14時～15時30分

横浜情報文化センター 6階
「情文ホール」

講師は元NHKアナウンサー、
フリーアナウンサーの

国井 雅比古氏

演題は「小さな旅して～人との
出会いと発見」

◇横浜定例講演会

2015年2月9日（月）

13時30分～15時

新横浜プリンスホテル 3階
「セレナーデ」

講師はダイヤ精機株式会社
代表取締役の 諏訪 貴子氏

演題は「中小企業の経営改革
と人材確保・育成」

視点 点描



時間軸を楽しむ発想から

西洋と日本の文化を比較する際、しばしば用いられるのが庭園の造形だ。

自然をあえて否定するように変形させ、幾何学的な構造に取り込んだ欧州の庭園。これとは対照的に樹木や池、こけむした石を巧みに調和させ、閉ざされた空間に自然を再現したのが日本庭園だ。一見、人工的な美を拒絶するようだが、自然の要素を集約していかに

も「自然らしく」しつらえた日本庭園は、やはり独自の意匠といえるのだろう。

文明批評でも名高い評論家の加藤周一が「文学とは何か」のなかで庭について語っている文章がある。とりわけ引かれるのは日本庭園の重要な要素として「時間」を挙げている点だ。

「朝に夕に、雨に風に、時間とともに変化する、印象派の画家た

ちが描いたよりもはるかに複雑微妙な効果をあらわす自然の光——確かに鎌倉の寺社を訪ねる楽しさは、時間軸に沿って変わる自然の表情にもある。花々に映る朝露の輝きから、竹林の間から差す日中の光、さらに寺院の屋根に闇が落ちてゆく夕刻の景……と、時が移るにつれ、その趣はまるで異なっ

て見える。幼いころから親しんだ鎌倉だが、時間軸での楽しみ方とは、指摘されてあらためて納得できる。インターネットで誰もが人類の英知にたやすくアクセスできる時代となったが、多くの情報に囲まれても、そのとらえ方や見方が偏向しては何にもならない。当たり前

に言われていることだが、こんなところで思い知らされる。昨年末、文学者たちの集まる会

合で、文芸批評を目にする機会が

少ない現状を嘆く声が聞かれた。批評とは、単に文学の良しあしや面白さを語る書評などとは異なる

（神奈川新聞社文化部 丸山 孝）

カメはおめでたい!

あけましておめでとうございま
す。ことしもご覧のほどを。

おめでたいところで、ツルは千
年、カメは万年と申します。は
てさて、そんなおめでたいカメと
そっくりなお品ものをご披露、申
上げませう。

亀の子たわしである。食べ物シ
リーズの連載に、たわしとはどう
してとお思いだろうが、毎日毎食
後、お世話になつてゐることはだ
れもが知っている。なによりも「亀
の子東子」というおめでたい品名、
すばらしいではないか。

では、広告の中身から。左半分
に『問題』『判じ絵』とあるのは、
絵ときクイズである。解答しま
しょう。

「しし」は二つのし↓二し↓
「西」。斧のイラスト↓「尾の」。

「亀」のイラ
ストにつづい
て「の」。子
どものイラス
ト↓「こ」、
田んぼのイラ
スト↓「た」、
輪が4つ↓
「わし」。

並べると、
「西」「尾の」
「亀」の「こ」
「た」「わし」。
すなわち「西
尾の亀のこた
わし」と読め
た。

どちらの家
庭でも、3度3度、お皿を(ごしこ)
しこすつてるはたらき者の亀の

めもどした。そして海へ向かつて、



子。カメはまことに愛らしい。何
にもしゃべらないで、懸命に生き
ていく。万年もですぞ。

先年、小笠原へ行った。浜辺で

ウミガメが産

卵するとい

う。ヨチヨチ

浜を上がつて

きた彼女は、

うしろ足で浜

に穴をほつた。

一息すると(そ

う見えた)、

ころころつと

まんまるの白

いたマゴが…

…よほど苦し

いのだろう、

彼女のつぶら

な眼からナミ

ダが。産卵が

終わつて彼女

は、うしろ足で砂をかけて穴を埋

戻つていった。浜辺には、足あと
とお腹を引いていった跡が残つて
いた。彼女は一度もふりかえらな
かった。ニンゲンの眼には、それ
ぞれ光るものがあつた。

たわしは東子と書く。ワラを束

ねて、巻きとめたもの。タテ長が

多い。そこへこんもりとした、亀

の子が出現した。1908(明治

41)年のこと。ワラよりも堅い、

シユロヤヤシの実の繊維をつかつ

て西尾正左衛門が生み出した。そ

れから10年後、この広告がでた。

現在はこの世に生まれて112

年、万年から引くとどうなるの?

《亀甲文きつこうもん》という図柄がある。

亀の甲羅をかたどつた、六角形の

連続模様。瑞祥ずいしょうのカメ、おめでた

い模様として、古くからきものや

調度品のデザインに用いられた。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(図) 亀の子たわしの広告・19

18(大正7)年9月11日・朝日新聞掲載